

平成30年7月6日

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A全農ふくれん 担い手支援課)
(公 印 省 略)

[緊急]

営農情報 6

7月5日からの大雨後の技術対策について

7月5日昼頃から局地的に記録的な大雨となり、一部で冠水、浸水等の被害が見られます。大雨後は下記の事項を参考に、技術対策の実施をお願いします。

人命が最優先です

ほ場・農業用施設の見回りは、気象情報を十分に確認し、大雨がおさまるまでは行わないで下さい。また、大雨がおさまった後の見回りにおいても、増水した水路、ため池等は危険です。そのような場所には近づかず、人命を最優先に事故防止の徹底に努めてください。

1 水 稲

●浅水管理に努める。

〔深水状態が続くことによる軟弱徒長の回避、スクミリンゴガイによる被害の低減。〕

●冠水した場合は、早急に排水をはかり冠水時間を短くする（十分な排水ができない状況でも、葉の先端が水面から出るよう最大限の努力をする）。

●排水後はできるだけ新しい酸素を含んだ用水と入れ替え、浅水管理を実施する。

2 大 豆

【播種後のほ場】

●畝溝や排水溝等の点検・再整備を行い、早急に排水をはかる。

●冠水により出芽苗立ちが不足した場合、播き直しを行う。

〔・播き直しの判断の目安：健全株が全体の7割以下。
・播種量：播種時期に応じて調整する。〕

【播種前のほ場】

●排水口の整備を行い、速やかな排水を図り、播種作業ができる環境を整える（排水が悪い部分は人力で作溝する等する）。

●ほ場の水分が適度になったら早急に播種を開始する。耕起・播種を組み作業や一工程作業で行い、7月20日までの適期播種に努める。

●播種深度は3cm程度が基準であるが、多湿の場合は播種深度をやや浅めにする。

●今後の降雨対策として「畝立て播種」を行う。

以上